

JA 営農情報

№360 令和7年 9月号

これから極早生品種の稲刈りが始まります。9月に入りますが、まだまだ厳しい暑さが予想されますので、事前にしっかりと準備し、無理のないように作業をしましょう。



秋の作業について

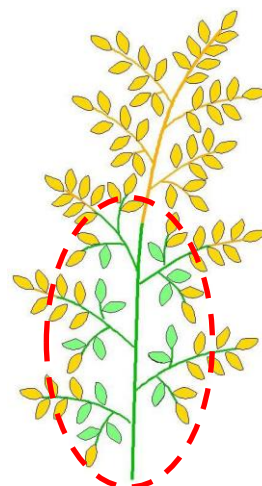
■落水時期

収穫前の落水を始めるタイミングの目安は、刈取の7～10日前ですが、天候の関係や水田ごとに水はけの良し悪しがあるため、都度調整しましょう。また、極端に早い落水は、米の充実が不十分となり白未熟米の発生を助長する恐れがあるため避けてください。

■刈取適期

稲刈りの判断は、『籾の黄化具合』を見て決めることが理想です。右図の点線範囲内に青い籾がやや残っている程度が刈取の適期となります。出穂後の日数や軸の色を見て判断する場合もありますが、落水時期や肥料の効き具合によってズレが生じやすいので、籾の色で判断することをおすすめします。

また、色を見る際は、畦畔周辺ではなく少し中に入ったところの穂を見て判断してください。



■乾燥

刈り取った稲をそのまま放置していると発酵が始まるため、速やかに全量を乾燥機へ張り込んでください。張り込後は2～3時間かけて通風乾燥をしますが、籾水分が高かったり極端に低かったりする場合は、長めに行いましょう。

その後は、うるち米は水分量14.5～15.0%、もち米は水分量13.0～13.5%を目安にしっかり乾燥させます。このとき、急激に乾燥させてしまうと胴割米の原因となるため、1時間当たり0.8%ずつ下げることが上限に乾燥させてください。

※二段乾燥について

時間に余裕がある場合は、水分のばらつきや戻りを防ぐために二段乾燥がおすすめです。

- ①風乾後、加温乾燥で籾水分が17%台になったら一度乾燥機を止める。
- ②停止後6時間以上あけてから再加温し、目標水分まで下げる。

秋冬野菜の栽培管理

近年は高温により、種をまいても発芽が悪かったり定植後に枯れてしまったりと管理が非常に難しくなっています。そのため、発芽するまでは軒下など涼しい場所で管理し、発芽後や定植後は遮光ネットや寒冷紗等をうまく使って暑さ対策をしましょう。



水やりは朝にしっかり行い、昼頃に乾いているようであればもう一度行います。夕方以降は少し乾いている状態で管理することが理想です。また、この時期はダイコンシンクイムシ（ハイマダラノメイガ）等の害虫が多く被害が大きいので、こまめに様子を確認し、早期発見・早期防除に努めてください。

●ＪＡ茨木市乾燥糶摺り施設利用案内

現在、ＪＡ茨木市の組合員を対象に乾燥糶摺り施設の利用申込を受付しております。
事前予約が必須ですので、ご利用の際は必ずご連絡ください。 TEL：641-9050

☆みしま館 出荷会員募集のご案内☆

当ＪＡが運営する農産物直売所『みしま館』の出荷会員を募集しています。
直売所への持込が困難な方については、営農経済センターへ持込いただくか
ご自宅へ集荷にお伺いすることも可能です。
少量でも構いませんので自分で育てた農産物を出荷してみませんか？
詳細についてはみしま館までお問い合わせください。 *TEL：645-7100

＜各種相談日のお知らせ＞

	法 律 相 談 隔月第２木曜日	税 務 相 談 隔月第４金曜日	ローン・資産・介護相談
９月	１１日	——	下記店舗にて随時受付しておりますので、 お気軽にお問い合わせください。
１０月	——	２４日	
１１月	１３日	——	
【実施場所】 ＪＡ茨木市 本店３階 小会議室 【受付時間】 午後１時～午後４時 ※定員は３名ですので、事前にご連絡ください。 総務課 広報ふれあい係 TEL：627-7768			●ローン・資産相談 ＪＡ茨木市 各支店 ●介護相談 介護支援センター（TEL：627-7767）



ご利用ください

【テレホンサービス】 青果物の市況をお知らせします。 TEL:641-9150
【営農１１０番】 栽培方法等ご相談ください。 TEL:641-9050